

施策名：観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進

事業名	担当課・局・室名	ページ
おおいた地域ブランドカアップ推進事業	広報広聴課	2 / 9
農山漁村ツーリズム推進事業	観光・地域局観光・地域振興課	3 / 9
ツーリズム戦略総合対策事業	観光・地域局観光・地域振興課	4 / 9
国内圏域別誘客促進事業	観光・地域局観光・地域振興課	5 / 9
M I C E 誘致推進事業	観光・地域局観光・地域振興課	6 / 9
海外誘客促進事業	観光・地域局観光・地域振興課	7 / 9
おもてなし観光案内標識整備事業	観光・地域局景観・まちづくり室	8 / 9
魅力ある景観づくり推進事業	観光・地域局景観・まちづくり室	9 / 9

事業名	おおいた地域ブランドカアップ推進事業	事業期間	平成 25 年度～平成 27 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	広報広聴課

[目的、現状・課題]

目的	対象	福岡・関西エリアの住民	現状・課題	大分県は、日本一の温泉をはじめ、観光素材・独自の魅力が豊富であり、来訪者の満足度はきわめて高いが、県の地域ブランド力は全国中位（2013地域ブランド総合評価：全国29位）と全国ではあまり知られていない。
	意図	大分県の認知度・好感度の向上を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
メディアおおいたウィークの実施	「日本一のおんせん県おおいたの味も満載」をキャッチコピーとした、県民主役の動画を制作し、テレビ放送やWEB配信を実施 PR期間：①9/4～9/25（福岡エリア）②9/15～10/6（関西エリア）③11/27～12/18（福岡エリア） TVCM：①143本、②137本、③141本 新聞：福岡4回、関西2回 委託先：(株)電通九州大分支社	全部委託	県	総コスト			82,558	134,874
				事業費			69,558	94,874
				うち一般財源			64,835	94,874
				うち繰越額				
				人件費			13,000	40,000
				職員数(人)			1.30	4.00
※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。								

[事業の成果等]

事業の成果	関西・福岡エリアを対象にメディアを活用した露出により、Yahoo!映像トピックスの8/30のアクセス数は日別ランキング第1位の544,518回を記録した。また、Yahoo!映像トピックスアワード2013ウケる部門で世界第9位。他に、公益社団法人全日本広告連盟主催の第8回「全広連鈴木三郎助地域賞」優秀賞受賞。福岡広告協会主催の第53回「福岡広告協会賞」銅賞受賞。						活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
	特設WEBサイトへのアクセス数(回)		24年度	25年度	目標値	目標年度							
	YouTubeでの動画再生数(回)			385,942									
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考				
	広告換算費(千円)	目標値				1,200,000			25年度の目標値が未設定なのは初めて広告換算費を算出したので、比較のための数値指標がないため。				
		実績値			1,172,998								
		達成率											

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	なし	大分県の認知度・好感度の向上を図ることを目的としているため、県で事業を実施することが適当である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)		23年度	25年度	プロポーザル方式で複数のメディアを組み合わせることで提案を受けているため効率性指標は設定できない。
			/	/	

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	大分県の認知度・好感度の向上を更に図るため
改善計画等	・26年度は、関西・福岡エリアでの事業を継続し、新たに首都圏エリアを対象とした県外広報を展開する予定		

事業名	農山漁村ツーリズム推進事業	事業期間	平成 20 年度～平成 26 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	観光・地域局 観光・地域振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	農林漁村体験民宿開業者	現状・課題	農山漁村体験民宿は、中山間地等において地域資源や農林水産者の生き様を活かして貴重な副収入を得る手段として有効であるが、近年増加した教育旅行への対応や他県との競争に堪えうるサービス提供が十分できていない。
	意図	受入態勢の整備を支援する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
受入地域等レベルアップ 農山漁村ツーリズム情報発信 農山漁村ツーリズム推進体制整備	ツーリズムインストラクターレベルアップ研修会 危機管理研修会 農山漁村ツーリズムガイド作成 委託先：佐伯印刷(株) 農山漁村ツーリズム推進協議会や行政担当者研修会	直接実施 直接実施 全部委託 直接実施	県	総コスト	16,483	13,751	12,478	12,796
				事業費	6,483	3,751	2,478	2,796
				うち一般財源	2,507	3,751	2,478	2,796
				うち繰越額				
				人件費	10,000	10,000	10,000	10,000
				職員数(人)	1.00	1.00	1.00	1.00

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	農林漁業体験民宿の開業件数は20年度から140件増加した。この結果、近年需要が増えている教育旅行などの受入も対応可能となり、農山漁村ツーリズム振興の基盤が整備された。					活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
							インストラクター研修会参加者(人)		24年度	25年度	目標値	目標年度
							危機管理研修会参加者(人)		11	12		
							103		118			
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(26年度)	評価	備考			
	県内の農林漁業体験民宿数(簡易宿所)(軒)	目標値	280	300	315	330	330	達成				
		実績値	329	342	355							
		達成率	117.5%	114.0%	112.7%							

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	NPOとの協働が可能	大分県ツーリズム戦略	大分県の農山漁村ツーリズム振興は各地域の個性ある取組を支援しながらも、NPO法人大分県グリーンツーリズム研究会等と連携し、広域にサービスのボトムアップ、誘客活動を行っていく必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・事業を民間へ委託することによる効率的・効果的な情報発信の展開	23年度	25年度	総コスト
			50		／
			千円/軒	千円/軒	成果指標の実績値

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	24年度に策定した大分県ツーリズム戦略に沿った事業展開が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、低コストで効果的な研修事業と情報発信を推進 専門コーディネーターの研修による各地域の事務局体制の強化と人材育成 24年度から導入したグリーンツーリズムインターン制の周知を図ることにより、これまで以上に新規開業者の拡大を推進 		

事業名	ツーリズム戦略総合対策事業	事業期間	平成 25 年度～平成 27 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	観光・地域局 観光・地域振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	国内観光客	現状・課題	日本一の湧出量と源泉数を誇る温泉をはじめ、豊かな食材や文化遺産などの地域資源に恵まれているものの、観光客のニーズが質的・量的に大きく変化し、地域間競争も激化する中、観光マーケット情報を的確に捉え、県内観光素材を活かした魅力ある観光商品づくりなど、総合的・効果的な取組が求められている。
	意図	国内観光客の県内誘致		

[事業の実施状況]

活動名		活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
地域資源磨き事業	情報発信事業 誘客対策事業	次世代リーダーの育成とネットワークの構築 ガイド養成、観光資源評価と商品化 「おんせん県おおいた」の統一的な情報発信とツール作成 JRDC誘致対策と全国JR主要駅でのPR展開 軍師官兵衛関連の旅行商品造成、ネット活用による誘客対策 九州観光推進機構や九州各県と連携した情報発信等 委託先：(公社) ツーリズムおおいた	一部委託	県	総コスト			135,767	139,002
					事業費			115,767	119,002
					うち一般財源			115,642	84,014
					うち繰越額				
					人件費			20,000	20,000
					職員数(人)			2.00	2.00

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	大分県ツーリズム戦略に基づき、地域観光素材を磨き、「日本一のおんせん県おおいた」に特化した情報発信、JRや旅行会社と連携した誘客や大河ドラマ軍師官兵衛にちなんだ旅行商品の造成、さらには九州観光推進機構や九州各県と連携した広域的な商談会などを展開することにより、効果的な誘客が図れた。						指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
							活動指標		24年度	25年度	目標値	目標年度
							ツーリズム大学講座開催数(回)		9	8	8	27
						商談会・相談会の開催数(回)		11	12	12	27	

成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(27年度)	評価	備考
	県内宿泊客数(千人)	目標値			5,130	5,170	5,200	達成	
		実績値			5,222				
達成率			101.8%						

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県ツーリズム戦略	大分県内全域での観光客誘客を図るためには、各市町村や観光協会などと連携した広域的な取組が不可欠となることから、県による実施が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・観光情報ツールの作成を民間へ業務委託し、効率的かつ効果的な情報発信を実施 ・JRや旅行会社と連携した効果的な誘客対策を展開 ・九州観光推進機構や九州各県、旅館組合等と連携した事業実施	23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値(H25:5,222人)
			円/人	26 円/人	

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	大分県ツーリズム戦略に沿った総合的な事業展開が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 地域を支えるリーダーや着地型観光を支えるガイド等の養成とネットワークづくりを推進 観光情報誌の活用、ターゲットを絞った情報発信などによる「日本一のおんせん県おおいた」のPRを強化 大河ドラマ軍師官兵衛にちなんだ旅行商品の造成や情報発信の推進 九州観光推進機構や九州各県との連携事業を強化 		

事業名	国内圏域別誘客促進事業	事業期間	平成 25 年度～平成 27 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	観光・地域局 観光・地域振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県外からの観光客	現状・課題	福岡圏域、関西圏域、首都圏域の三大都市圏において、各圏域における本県の認知度や旅行形態などをふまえて、大分県観光に関する情報発信や魅力的な旅行商品造成などの取組強化が求められている。
	意図	大分県の情報発信と誘客促進		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
福岡圏域 関西圏域 首都圏域	機関誌「ぐるり」発行や記事広告出稿、招へいツアー等 JR大阪駅キャンペーンや観光と食のタベ 旅行エージェント訪問等 「丸の内朝大学・大分温泉学」開講や招へいツアー実施等 委託先：(公社) ツーリズムおおいた	委託	県	総コスト			136,520	122,392
				事業費			86,520	72,392
				うち一般財源			76,117	59,692
				うち繰越額				
				人件費			50,000	50,000
				職員数(人)			5.00	5.00

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	「おんせん県おおいた」の商標登録を受け、各圏域でイベント出展や積極的な営業訪問などを通じて認知度向上に取り組んだ。その結果、対前年度を上回る宿泊者数を達成した。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
					24年度	25年度	目標値	目標年度	
			ツーリズムおおいた商談会(回)			2	2	27	
			エージェント招へいツアー(回)			2	2	27	
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(27年度)	評価	備考
	県外からの宿泊客数(20年を100とした指標)	目標値			104	105	106	達成	20年度の県外からの宿泊客数 3,213,234人
		実績値			110				
		達成率			105.8%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県ツーリズム戦略	県外に対して本県全体の観光情報発信や誘客対策については、観光事業者や県外事務所、市町村などと連携した広域的な取組が重要であり、県による実施が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図れない(見直し困難)		23年度	25年度	総コスト / 成果指標の実績値(H25:110)
			円/人	1,241 円/人	

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	27年度のJRDCを控え、一般向けイベントは行わず、エージェント対策に特化するため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・ツーリズム戦略の確実な推進に向けて情報発信と誘客対策を強化 ・平成26年9月のJRDC販売促進会議後に、未出席者やネット事業者らを対象に各圏域でセールスを実施 ・取材助成費の基準を明確化して、積極的な情報発信を実施 		

事業名	MICE誘致推進事業	事業期間	平成 25 年度～平成 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	観光・地域局 観光・地域振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	県外在住者	現状・課題	ピーコンプラザ、iichiko総合文化センター、大分銀行ドーム等の大型施設に加えて豊富な温泉、魅力的な食をもつ本県のポテンシャルを活かして、経済波及効果の高いMICEの誘致を推進することが求められており、大分県ツーリズム戦略における団体誘客の柱の一つとして位置づけられている。
	意図	来県機会を創出し、県内消費の増大を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
MICE誘致推進協議会	官民一体で情報共有を図るための協議会の運営 ワンストップ受け入れ窓口となるセンターの立ち上げ 委託先：(公社) ツーリズムおおいた MICE商談会への参加や開催経費に対する助成の実施 委託先：(公社) ツーリズムおおいた	直接実施	県	総コスト			15,016	17,896
MICEセンター立ち上げ		一部委託		事業費			5,016	7,896
MICE誘致活動の促進		一部委託		うち一般財源			5,016	7,896
				うち繰越額				
				人件費			10,000	10,000
				職員数(人)			1.00	1.00

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	平成25年4月に(公社) ツーリズムおおいた内にMICEセンターを設置。また、7月に実施した大分県MICE誘致推進協議会においてMICE誘致に向けての各団体の役割等を示した「大分県MICE推進指針」を制定するとともに、おんせん会議をテーマとしたチラシ、ホームページ等を作成し、誘致活動を進めた。						活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
								MICE商談会(出席回数)		24年度	25年度	目標値	目標年度
										1	2		
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考				
	県内主要4施設における500人以上かつ九州大会以上の大会開催数(回)	目標値			61	61		達成					
		実績値			66								
		達成率			108.2%								

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県ツーリズム戦略	県内での大型MICEの開催時の誘致、輸送、宿泊体制の確保においては、大分、別府両市のエリアを超えた調整や警備等、県をあげての取組が必要な要素も多いことから、県による実施が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)		23年度	25年度
			/	228
				円/回
			総コスト	
			成果指標の実績値(H25:66回)	

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	基本的な体制が確立したため、誘致促進に事業内容をシフト、拡充が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> (公社) ツーリズムおおいたMICEセンター、大分市、別府市、大学及び経済関係者との連携を強化して効果的な誘致活動を推進 後年度開催時の助成財源確保のため、助成に係る経費を委託から補助に変更し、ツーリズムおおいた内に設置した基金に積み立てる方式に変更 		

事業名	海外誘客促進事業 (※旧：海外観光客誘致対策事業)	事業期間	平成 2 年度～平成 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	観光・地域局 観光・地域振興課

[目的、現状・課題]

目的	対象	海外観光客	現状・課題	今後国内経済の縮小が見込まれる中で、経済成長の著しい東アジアや東南アジアを主なターゲットとして観光客を誘致するためには、ターゲット市場を絞り込み、国・地域の特性やニーズに応じた情報発信・セールスを行うとともに、外国人観光客の受入態勢の整備が求められている。
	意図	大分県に誘客する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
中国誘客対策	中国からのメディア招請	一部委託	県(VJは国、他県と連携)	総コスト	36,022	61,655	74,396	70,138
韓国誘客対策	韓国マーケットでのプロモーション及びセールスの強化	一部委託	県	事業費	16,022	31,655	44,396	40,138
香港誘客対策	香港でのプロモーション・セールス、民間事業者との連携	一部委託	県(VJは国と連携)	うち一般財源	16,022	31,655	44,396	37,132
その他アジアからの誘客対策	台湾での観光展出演・セールス、タイプロモーション	一部委託	県(他県と連携)	うち繰越額				
クルーズ船誘致	クルーズ船の寄港誘致	一部委託	県、国際観光船誘致促進協議会	人件費	20,000	30,000	30,000	30,000
情報発信事業	ホームページの充実やパンフレットの作成	全部委託	県	職員数(人)	2.00	3.00	3.00	3.00
委託先：(公社) ツーリズムおおいた				※VJ=ビジットジャパン事業 ※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。				

[事業の成果等]

事業の成果	国や九州観光推進機構、九州他県と連携して、旅行会社やマスコミの招請事業、海外での観光展・商談会への参加やセールスなど、海外からの誘客に取り組んだ。25年の宿泊者数は、観光庁調査で前年比33.3%の増加となった。	活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標		
					24年度	25年度	目標値	目標年度	
			韓国セールス(回)		7	3	3		
			中国セールス(回)		1	1	3		
			海外メディア取材招請・受入れ(回)		30	18	22		
成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考
	外国人観光客宿泊数(人泊/年)	目標値	180,000	360,000	370,000	380,000	390,000	達成	中国を除く東アジアから、タイやシンガポールなど東南アジアからの宿泊客が大幅に増加したことから、前年比33.3%の増加となり、目標を達成した。
		実績値	328,140	286,850	382,440				
		達成率	182.3%	79.7%	103.4%				

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県ツーリズム戦略 大分県海外戦略	外国人観光客の誘致には、九州の知名度向上や他県を含めた広域的なPRが効果的なことから、国や九州観光推進機構、九州各県との連携が必要。また、県内の民間事業者や市町村が、海外の旅行社やメディア等に商談やPRを行う際には、個々の取組よりも、まとまった形での商談やPRが効果的であることから、県による事業実施が不可欠である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	24年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・(公社) ツーリズムおおいたに委託	23年度	25年度	総コスト
			110 円/人泊	195 円/人泊	／ 成果指標の実績値(H25:382,440人泊)

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	国内外の地域との競争が激化する中、海外の活力を観光産業に取り込んでいくために一層の強化が必要
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 24年度に策定した大分県ツーリズム戦略に基づき、海外からの観光客の誘致を促進 本県への観光客の多い韓国、台湾、香港、中国に加え、タイ等ASEANに対して情報発信を行い、誘客を促進 情報発信のみならず、外国人観光客の受入態勢の整備を推進 		

事業名	おもてなし観光案内標識整備事業 (※旧：観光客にやさしい案内標識整備事業)	事業期間	平成 15 年度～平成 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	観光・地域局 景観・まちづくり室

[目的、現状・課題]

目的	対象	観光客	現状・課題	道路交通網整備や新しい観光施設整備などの社会情勢の変化により、観光客が目的地まで円滑に移動できない恐れがある。また、観光地において、周辺案内表示を目的とした標識のような、本来市町村が管理すべき標識についても、県が管理している実態がある。
	意図	目的地までの円滑な移動を支援する		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト	23年度	24年度	25年度	26(予算)
観光案内標識の整備 市町村移管観光標識の改修	観光案内標識の再整備(別府市 別府国際観光港1基、竹田市 里の駅「萩の里温泉」1基) 市町村への観光標識等の移管(200基)	直接実施	県	総コスト	14,867	10,214	14,477	11,596
				事業費	9,867	5,214	9,477	6,596
				うち一般財源	9,867	5,214	9,477	1,490
				うち繰越額				
				人件費	5,000	5,000	5,000	5,000
職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50				

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	老朽化した観光案内標識をリニューアルするとともに、道路交通網整備等の社会情勢の変化に対応し、観光地へのスムーズなアクセスを誘導する案内標識の表示修正工等を実施することにより、観光客の利便性の確保と大分県観光へのイメージアップを図った。また、市町村へ観光標識の移管を行うことにより、双方において適正な観光案内標識の管理体制が構築できた。						活動指標	指標名(単位)		事業の実績		最終目標	
	指標名(単位)		24年度	25年度	目標値	目標年度							
	観光案内標識の整備基数(基)		2	2									
市町村への観光標識等の移管(基)			123	200	26								
成果指標	指標名(単位)		達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考			
			目標値							指標が設定できないのは、観光客を目的地まで誘導することが目的であり、観光案内標識の整備に限定した指標の計測が困難なため。			
			実績値										
			達成率										

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	大分県ツーリズム戦略	市町村をまたがる広域観光ルート形成に寄与するため、県による実施が必要である。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている(拡大困難)	・標識の両面活用による建設コストの削減 ・標識台帳システムの整備を行い標識に関する事務を効率化	23年度	25年度	総コスト / 活動指標の実績値(H25:2基)
			7,434	7,239	
			千円/基	千円/基	

[総合評価]

方向性	現状維持	方向性の判断理由	24年度に策定した大分県ツーリズム戦略に基づき新たな観点での整備が必要なため
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 26年度は大分県ツーリズム戦略に基づき、改修の際「日本一のおんせん県おおいた」をPRする表記を追加 東九州自動車道の整備に伴い増加が見込まれる観光客への情報提供のため必要な観光案内標識を新設 		

事業名	魅力ある景観づくり推進事業	事業期間	平成 25 年度～平成 28 年度	上位の施策名	観光と地域づくりを一体とするツーリズムの推進
				担当課・局・室名	観光・地域局 景観・まちづくり室

[目的、現状・課題]

目的	対象	県民	現状・課題	日本風景街道に認定される「九州横断の道やまなみハイウェイ」は、里山や植林地の荒廃が進み、伸び放題の樹木等により、かつての美しい眺望が阻害されている。また、地域に点在する魅力的な景観について、大分県の観光資源・地域の宝として県民の認識が十分でない。
	意図	景観を活用した地域振興・観光振興を図る		

[事業の実施状況]

(単位：千円)

活動名	活動内容	執行形態	事業主体	コスト				
				23年度	24年度	25年度	26(予算)	
風景街道「九州横断の道やまなみハイウェイ」景観再生 景観に対する意識啓発	不良雑木等の伐採整理を行う市町村等に対する補助 (由布市：蛇越展望台、九重町：阿蘇眺望) 魅力ある景観づくりシンポジウム等の開催(2回)	直接補助	市町村	総コスト			6,053	26,897
				事業費			1,053	11,897
		直接実施	県	うち一般財源			458	357
				うち繰越額				
				人件費			5,000	15,000
職員数(人)			0.50	1.50				

※「うち一般財源」と「うち繰越額」は重複する場合がある。

[事業の成果等]

事業の成果	指標名(単位)	事業の実績		最終目標	
		24年度	25年度	目標値	目標年度
風景街道「九州横断の道やまなみハイウェイ」の視点場からの展望を阻害する樹木等を伐採することにより、かつての美しい眺望の再生が図れ、展望台に訪れる県民が増加した。また、県民及び行政職員を対象とするシンポジウム等を開催することにより、景観保全・活用の重要性等に対する意識向上につながった。	伐採箇所数(箇所)		2		
	シンポジウム開催数(回)		2		

成果指標	指標名(単位)	達成度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終達成(年度)	評価	備考	
		目標値								
		実績値								
		達成率								

指標が設定できないのは、景観資源の再生による地域振興・観光振興が目的であり、指標の計測が困難なため。

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	活動根拠	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	景観法	広域的及び統一的な景観づくりの方向性を県が主導する必要がある。

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	25年度までの主な効率化の取組状況	効率性指標		左の計算式
			23年度	25年度	
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図れない(見直し困難)		/	3,027 千円/箇所	総コスト / 活動指標の実績値(H25:2箇所)

[総合評価]

方向性	見直し(26年度)事業内容の拡充	方向性の判断理由	景観資源の再整備を行う必要があるため
改善計画等	・整備から相当年数が経過している九州自然歩道等について、利用者の利便性・安全性を向上を図るため再整備		